

あきる野市農業振興計画

# アンケート調査結果の報告

## 目 次

1. 調査の概要.....	1
2. 農業者アンケート結果.....	2
問1 回答者の年代.....	2
問2 回答者の居住地区.....	3
問3 農業従事者数.....	4
問4 経営農地面積.....	4
問5 貸出農地面積.....	6
問6 不耕作地の有無.....	7
問7 (ア) 不耕作地の種類.....	8
問7 (イ) 不耕作地の理由.....	8
問8 不耕作地の活用.....	9
問9 必要な農業支援.....	10
問10 農産物販売の収入有無.....	11
問11 販売先・出荷先.....	12
問12 栽培・出荷作業に係る人数.....	13
問13 加工品販売の有無.....	14
問14 加工品の作業者.....	14
問15 売上金額.....	15
問16 売上収入上位の作物.....	16
問17 今後の農産物販売.....	17
問18 今後の農業経営について.....	18
問19 貸したい農地の有無.....	19
問21 体験型農園の認知度.....	20
問22 就農者・ボランティアの受け入れ.....	21
問23 交流事業.....	22
■自由記述.....	23
3. 直売所利用者アンケート結果.....	26
問1 回答者の年代.....	26
問2 回答者の居住地区.....	27
問3 ア直売所の利用頻度（秋川ファーマーズセンター）.....	29
問3 イ直売所の利用頻度（五日市ファーマーズセンター）.....	30
問3 ウ直売所の利用頻度（瀬音の湯（朝露））.....	31
問4 直売所に来た理由（複数回答可）.....	32
問5 今後販売してほしい商品.....	33
問6 農業への理解関心を高めるための取組（複数回答可）.....	34
■自由記述.....	35

## 1. 調査の概要

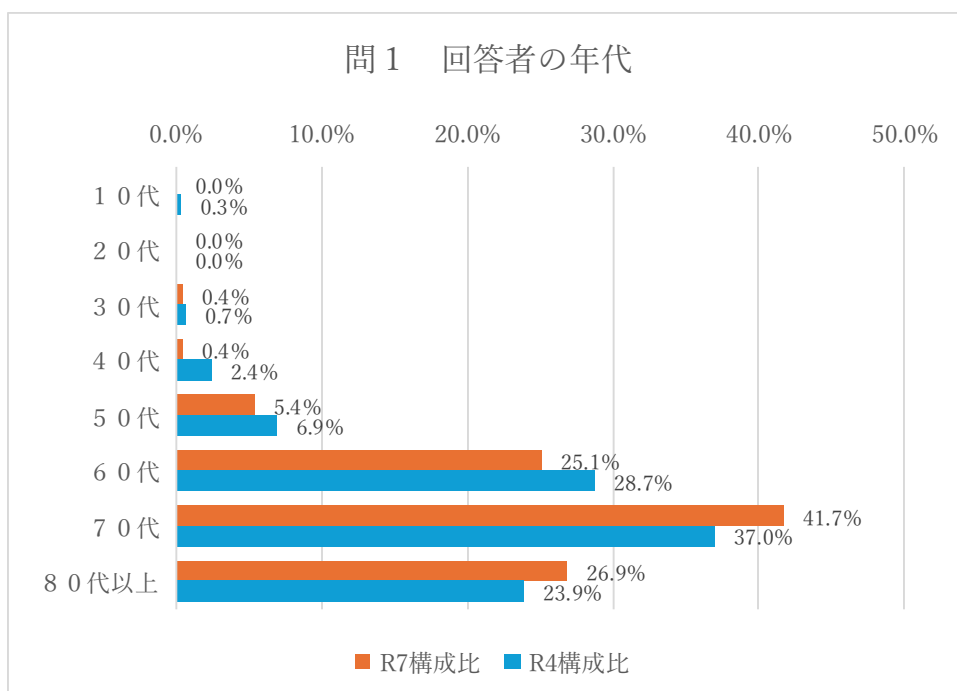
調査期間	対象	配布数	回収状況
農業者アンケート 令和7年6月	東京都農作物生産状況調査に回答している方 調査方法：郵送配布・郵送回収	277件	223件 回収率 80.5%
直売所利用者アンケート 令和7年6月	秋川ファーマーズセンター、五日市ファーマーズセンター、瀬音の湯物産販売所「朝霧」の各直売所に来店された方 調査方法：面接調査	114件	

## 2. 農業者アンケート結果

### 問1 回答者の年代

回答者の年代は70歳代以上が153人（68.6%）となっており。前回実施時の60.9%から7.7%増えている。

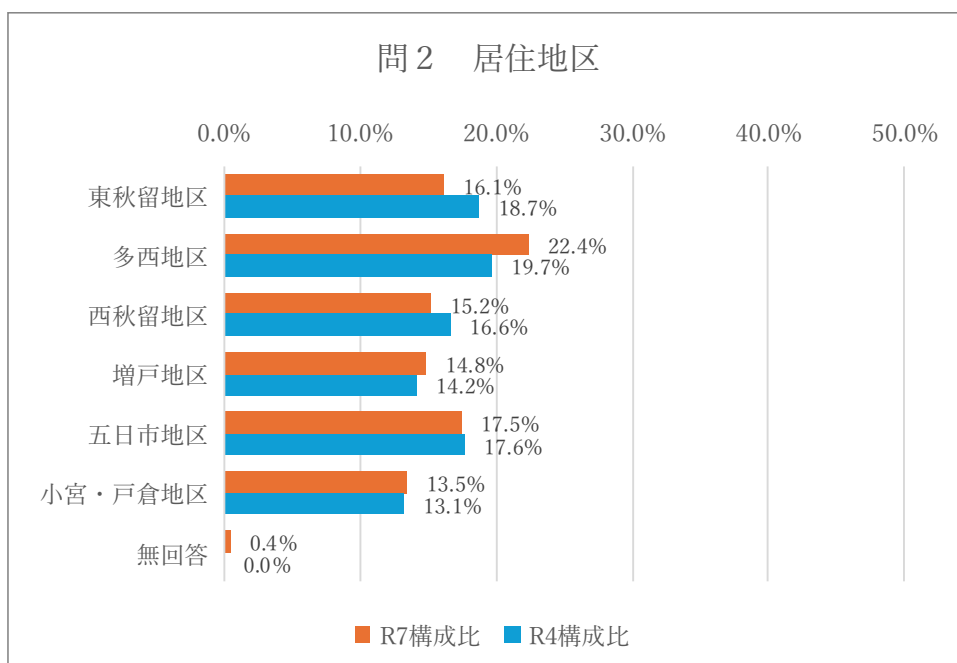
年代	令和7年		令和4年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
10代	0	0.0%	1	0.3%
20代	0	0.0%	0	0.0%
30代	1	0.4%	2	0.7%
40代	1	0.4%	7	2.4%
50代	12	5.4%	20	6.9%
60代	56	25.1%	83	28.7%
70代	93	41.7%	107	37.0%
80代以上	60	26.9%	69	23.9%
計	223	100%	289	100%



## 問2 回答者の居住地区

回答者の住まいのある地区については、東秋留・多西地区で構成比に若干の変動が見られるが、令和4年時とほぼ同様の結果で、多西地区居住者からの回答が最も多い。

地区	令和7年		令和4年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
東秋留地区	36	16.1%	54	18.7%
多西地区	50	22.4%	57	19.7%
西秋留地区	34	15.2%	48	16.6%
増戸地区	33	14.8%	41	14.2%
五日市地区	39	17.5%	51	17.6%
小宮・戸倉地区	30	13.5%	38	13.1%
無回答	1	0.4%	0	0.0%
計	223	100.0%	289	100.0%



### 問3 農業従事者数

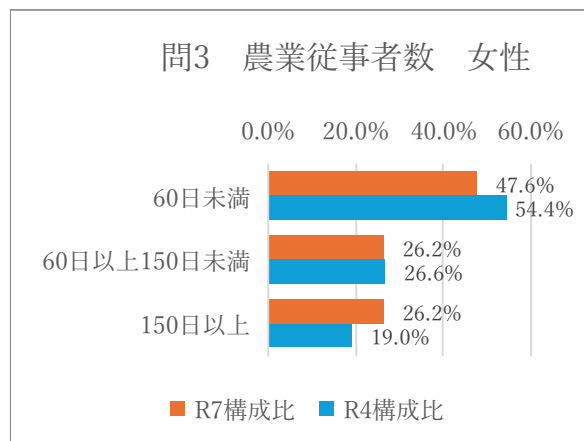
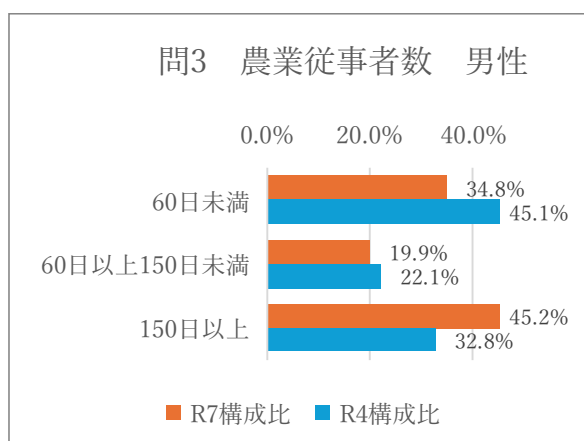
世帯での農業従事者数を1年間の従事日数別に尋ねた。男女合計324人の農業従事者の内、ほぼ専業として150日以上農業に従事している人数は男女合わせて127人(39.2%)であった。

構成比としてみると、令和4年に比べて60日未満の割合が小さくなり、150日以上の割合が大きくなっている。

従事日数(1年間)	男性							
	全体				60歳未満			
	令和7年		令和4年		令和7年		令和4年	
	回答数	R7構成比	回答数	R4構成比	回答数	R7構成比	回答数	R4構成比
60日未満	77	34.8%	139	45.1%	16	35.6%	27	47.4%
60日以上150日未満	44	19.9%	68	22.1%	8	17.8%	11	19.3%
150日以上	100	45.2%	101	32.8%	21	46.7%	19	33.3%

従事日数(1年間)	女性							
	全体				60歳未満			
	令和7年		令和4年		令和7年		令和4年	
	回答数	R7構成比	回答数	R4構成比	回答数	R7構成比	回答数	R4構成比
60日未満	49	47.6%	86	54.4%	11	42.3%	27	47.4%
60日以上150日未満	27	26.2%	42	26.6%	7	26.9%	11	19.3%
150日以上	27	26.2%	30	19.0%	8	30.8%	19	33.3%

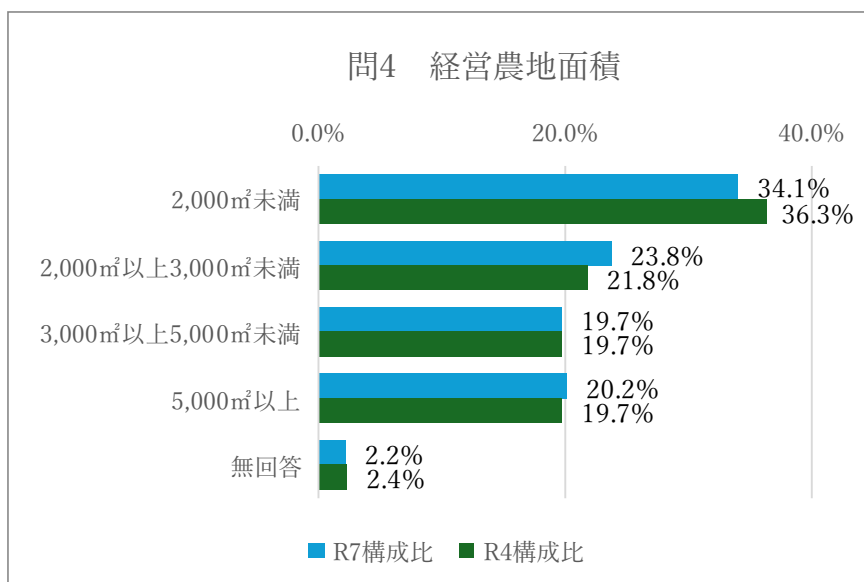
※構成比は得られた従事者数の合計に対する値



#### 問4 経営農地面積

経営農地面積については、2,000㎡未満がほぼ1/3だが、5,000㎡以上も1/5となっており、多様な規模の経営が行われている。全体としてみると、前回アンケート実施時とほぼ同様の構成比となっている。

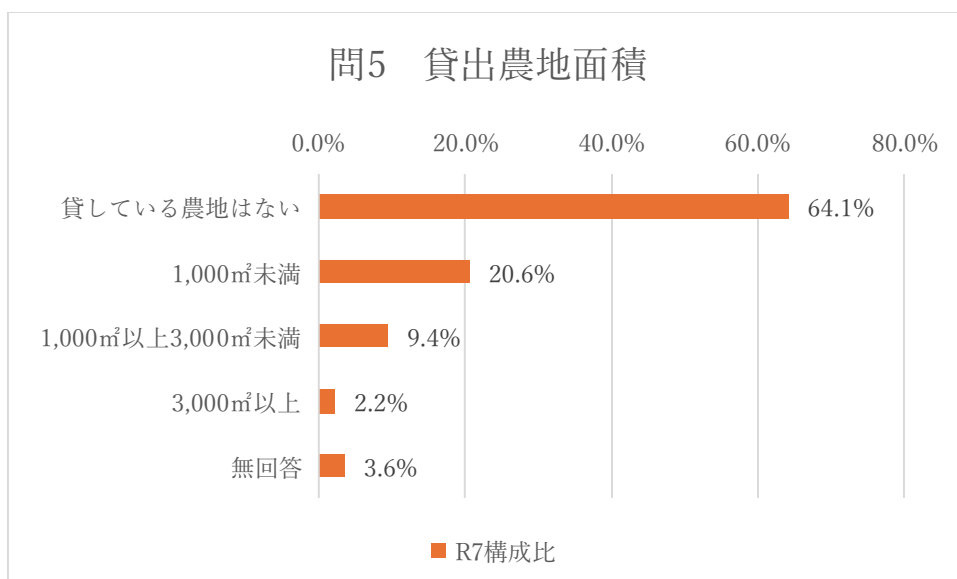
経営農地面積	令和7年		令和4年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
2,000㎡未満	76	34.1%	105	36.3%
2,000㎡以上 3,000㎡未満	53	23.8%	63	21.8%
3,000㎡以上 5,000㎡未満	44	19.7%	57	19.7%
5,000㎡以上	45	20.2%	57	19.7%
無回答	5	2.2%	7	2.4%
合計	223	100.0%	289	100.0%



## 問5 貸出農地面積

世帯として誰かに貸している農地の面積については、1000㎡未満が20.6%と最も多くなっており、貸していると答えた方は全体の約1/3となっている。

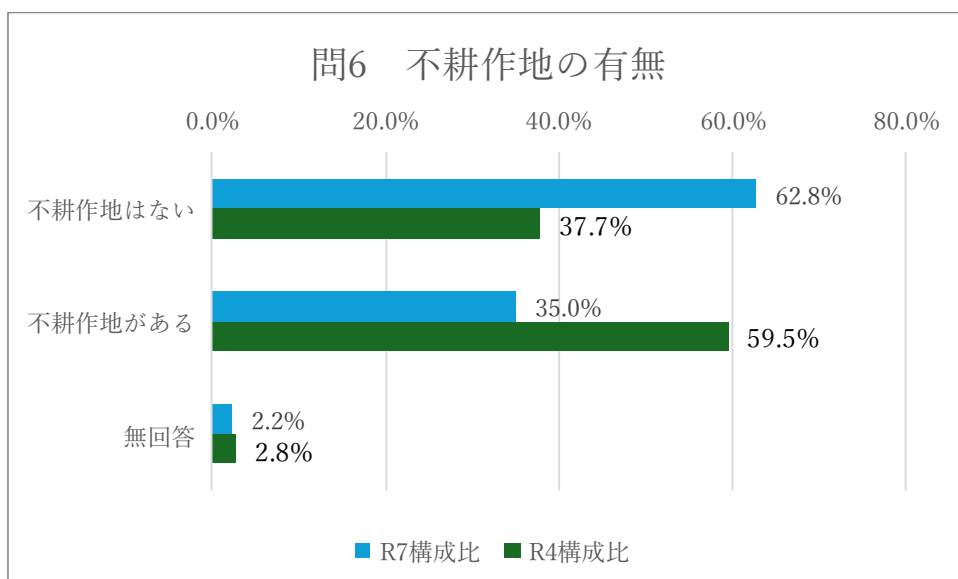
貸出農地面積	令和7年	
	回答数	R7 構成比
貸している農地はない	143	64.1%
1,000㎡未満	46	20.6%
1,000㎡以上3,000㎡未満	21	9.4%
3,000㎡以上	5	2.2%
無回答	8	3.6%
合計	223	100.0%



## 問6 不耕作地の有無

不耕作地の有無については、78人（35.0%）から不耕作地があると回答が得られた。構成比の前回比較では、不耕作地の有無の逆転が見られる結果となっている。

不耕作地の有無	令和7年		令和4年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
不耕作地はない	140	62.8%	109	37.7%
不耕作地がある	78	35.0%	172	59.5%
無回答	5	2.2%	8	2.8%
合計	223	100.0%	289	100.0%



### 問7（ア）不耕作地の種類

不耕作地の種類については、前回アンケート実施時と同様に、畑の回答が多くなっている。

※構成比は問6「不耕作地がある」の回答数に対する割合

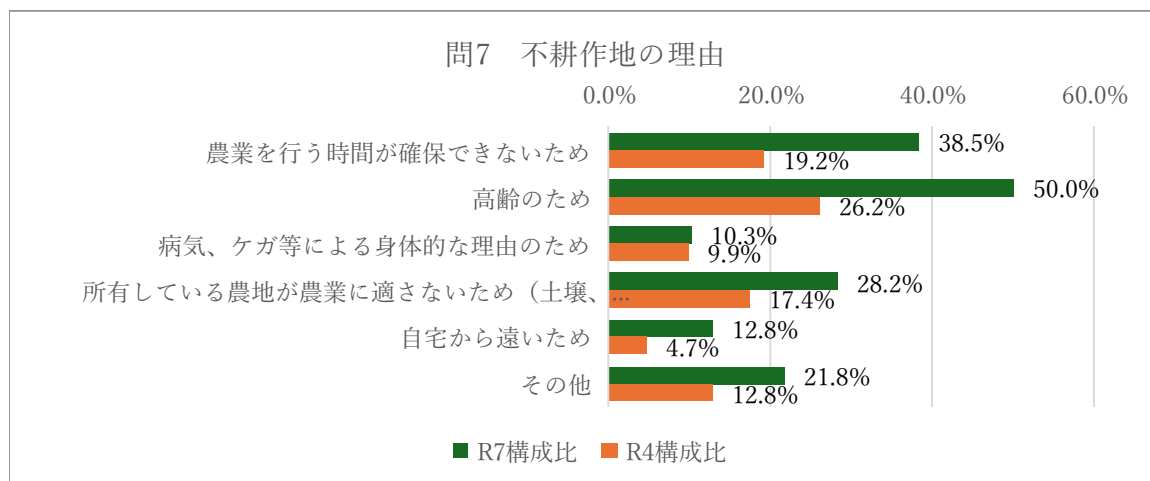
耕作地の種類	令和7年		令和4年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
田	22	28.2%	43	25.0%
畑	61	78.2%	74	43.0%

### 問7（イ）不耕作地の理由

不耕作になっている理由は、「高齢のため」、「時間がない」「農業に適さない」の3つが大きな割合を占めている。

※構成比は問6「不耕作地がある」の回答数に対する割合

不耕作の理由	令和7年		令和4年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
農業を行う時間が確保できないため	30	38.5%	33	19.2%
高齢のため	39	50.0%	45	26.2%
病気、ケガ等による身体的な理由のため	8	10.3%	17	9.9%
所有している農地が農業に適さないため（土壌、日照等）	22	28.2%	30	17.4%
自宅から遠いため	10	12.8%	8	4.7%
その他	17	21.8%	22	12.8%

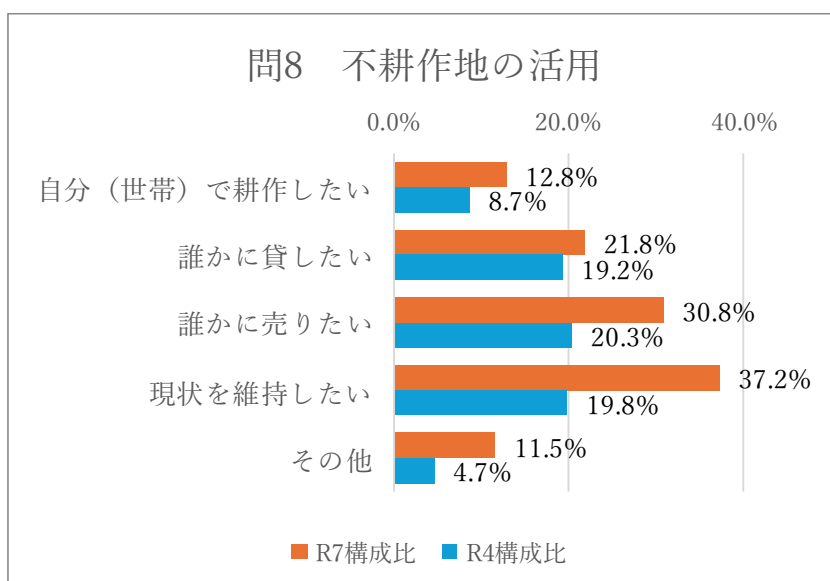


## 問8 不耕作地の活用

不耕作地に対する対応では、「貸したい」「売りたい」とする回答が41人（52.6%）となっている。また「現状維持」という回答も1/3超から得られている。

※構成比は問6「不耕作地がある」の回答数に対する割合

不耕作地の活用方針	令和7年		令和4年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
自分（世帯）で耕作したい	10	12.8%	15	8.7%
誰かに貸したい	17	21.8%	33	19.2%
誰かに売りたい	24	30.8%	35	20.3%
現状を維持したい	29	37.2%	34	19.8%
その他	9	11.5%	8	4.7%

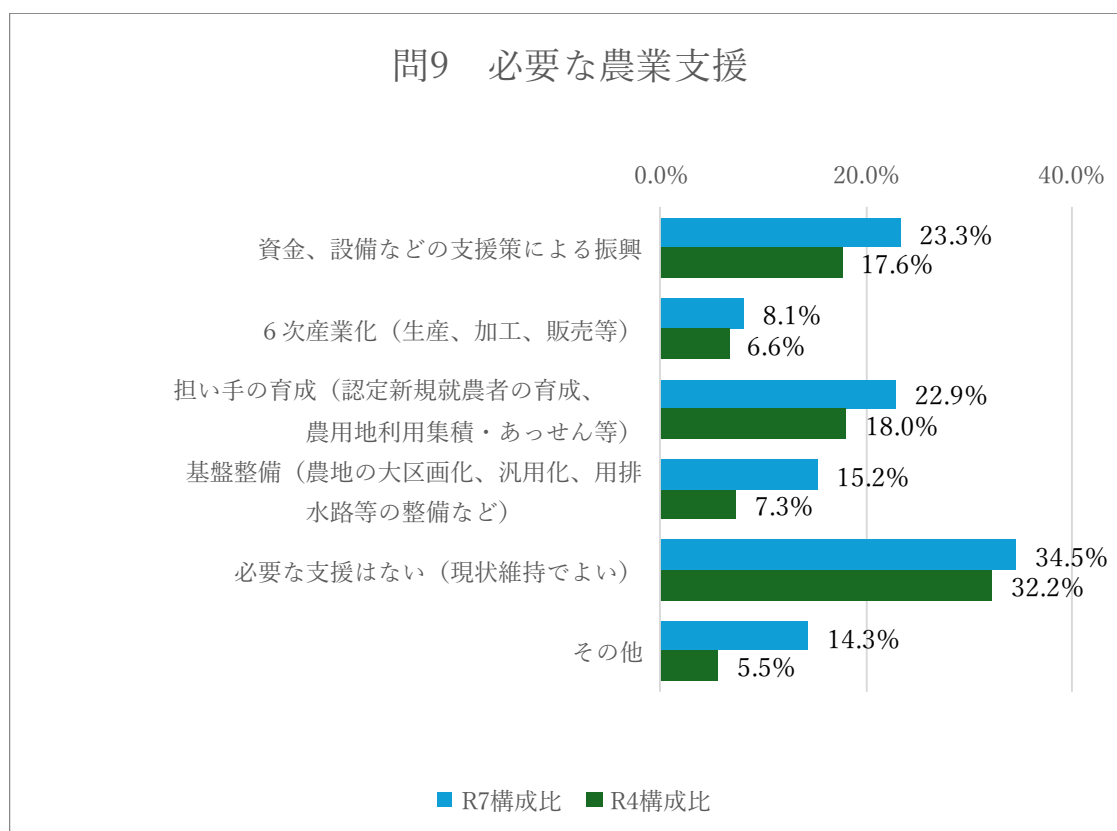


## 問9 必要な農業支援

必要な農業支援策については、「資金・設備支援」、「担い手の育成」、「基盤整備」の要望が多いが、「必要なし」とする回答も34.5%から得られている。また、「その他」も前回比較で顕著に増えおり、多様な支援の要望があることがうかがえる。

※複数回答

必要な農業支援	令和7年		令和4年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
資金、設備などの支援策による振興	52	23.3%	51	17.6%
6次産業化（生産、加工、販売等）	18	8.1%	19	6.6%
担い手の育成（認定新規就農者の育成、農用地利用集積・あっせん等）	51	22.9%	52	18.0%
基盤整備（農地の大区画化、汎用化、用排水路等の整備など）	34	15.2%	21	7.3%
必要な支援はない（現状維持でよい）	77	34.5%	93	32.2%
その他	32	14.3%	16	5.5%



#### 問 10 農産物販売の収入有無

農産物販売による収入の有無については、「ある」との回答が78人から得られた。前回との比較ではほぼ同様の構成比となっている。

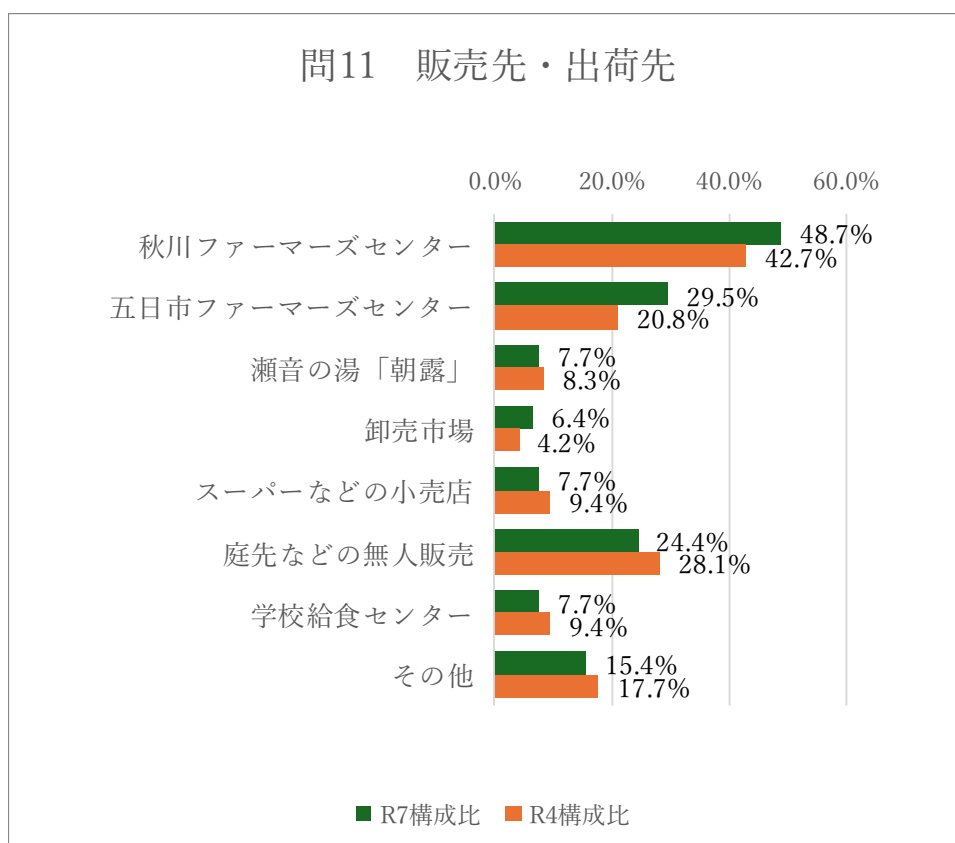
収入の有無	令和7年		令和4年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
ある	78	35.0%	96	33.2%
ない	142	63.7%	190	65.7%
無回答	3	1.3%	3	1.0%
合計	223	100.0%	289	100.0%

## 問 11 販売先・出荷先

現在の販売先・出荷先は、直売所（秋川 48.7%・五日市 29.5%）が多く、市場出荷は5人（6.4%）と少ない。また、「庭先などの無人販売」も約 1/4 が行っていると回答している。

※複数回答、構成比は問 10「収入がある」の回答数に対する割合

出荷・販売先	令和 7 年		令和 4 年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
秋川ファーマーズセンター	38	48.7%	41	42.7%
五日市ファーマーズセンター	23	29.5%	20	20.8%
瀬音の湯「朝露」	6	7.7%	8	8.3%
卸売市場	5	6.4%	4	4.2%
スーパーなどの小売店	6	7.7%	9	9.4%
庭先などの無人販売	19	24.4%	27	28.1%
学校給食センター	6	7.7%	9	9.4%
その他	12	15.4%	17	17.7%



問12 栽培・出荷作業に係る人数

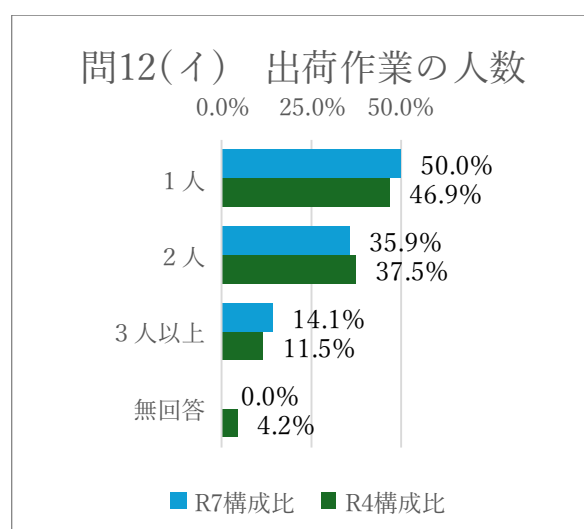
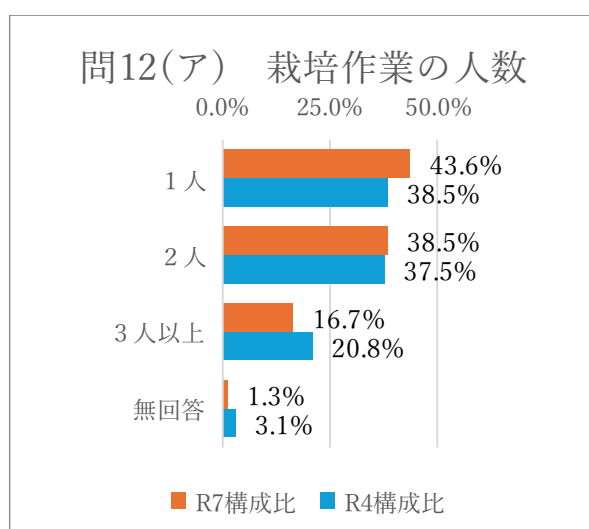
栽培・出荷作業ともに、8割以上の世帯で2人以下との回答であった。

いずれも担い手は主に世帯の構成員（世帯主・配偶者・子など）であるが、3人以上との回答した人の多くから、「その他」（パートなどと推測される）を担い手とし挙げられている。（栽培作業：その他：11人、出荷：その他：8人）

※構成比は問10「収入がある」の回答数に対する割合

栽培作業の人数	令和7年		令和4年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
1人	34	43.6%	37	38.5%
2人	30	38.5%	36	37.5%
3人以上	13	16.7%	20	20.8%
無回答	1	1.3%	3	3.1%
合計	78	100.0%	96	100.0%

出荷作業の人数	令和7年		令和4年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
1人	39	50.0%	45	46.9%
2人	28	35.9%	36	37.5%
3人以上	11	14.1%	11	11.5%
無回答	0	0.0%	4	4.2%
合計	78	100.0%	96	100.0%



問 13 加工品販売の有無

加工品販売については 8 人から「行っている」との回答を得られた。

※構成比は問 10「収入がある」の回答数に対する割合

加工品販売の有無	令和 7 年		令和 4 年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
行っている	8	10.3%	14	14.6%
行っていない	71	91.0%	76	79.2%

問 14 加工品の作業者

加工品作業の主な担い手は世帯主・配偶者となっている。

※構成比は問 13「行っている」の回答数に対する割合

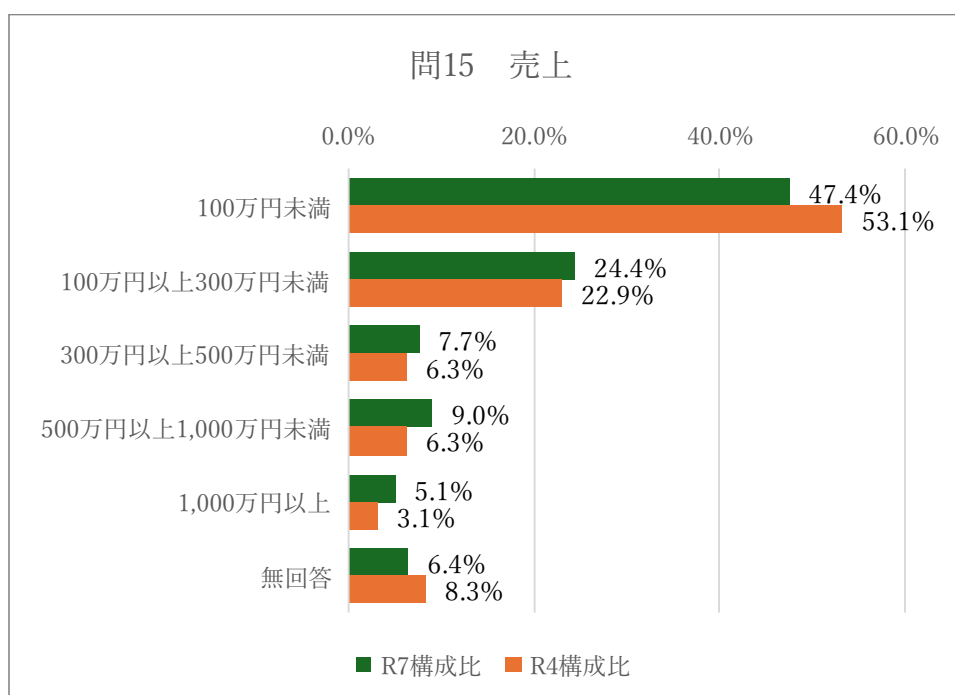
加工品の作業者	令和 7 年		令和 4 年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
世帯主	6	75.0%	8	57.1%
配偶者	6	75.0%	6	42.9%
親	1	12.5%	2	14.3%
子	2	25.0%	1	7.1%
その他	1	12.5%	4	28.6%

## 問 15 売上金額

売上については、「100万円未満」が37人（47.4%）、「500万円以上」が11人（14.1%）となっている。前回との比較では、「100万円未満」の構成比の減少が確認できる。

※構成比は問 10「収入がある」の回答数に対する割合

売り上げ	令和7年		令和4年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
100万円未満	37	47.4%	51	53.1%
100万円以上 300万円未満	19	24.4%	22	22.9%
300万円以上 500万円未満	6	7.7%	6	6.3%
500万円以上 1,000万円未満	7	9.0%	6	6.3%
1,000万円以上	4	5.1%	3	3.1%
無回答	5	6.4%	8	8.3%
合計	78	100.0%	96	100.0%



問 16 売上収入上位の作物

売上収入の多い作物については、トウモロコシが前回同様に第 1 位となっている。第 2 位・第 3 位は前回とは異なり、前回第 2 位の栗がなくなり、サトイモ・ダイコンとなっている。

売上の多い作物	令和 7 年	令和 4 年
第 1 位	トウモロコシ	トウモロコシ
第 2 位	サトイモ	栗
第 3 位	ダイコン	トマト

## 問 17 今後の農産物販売

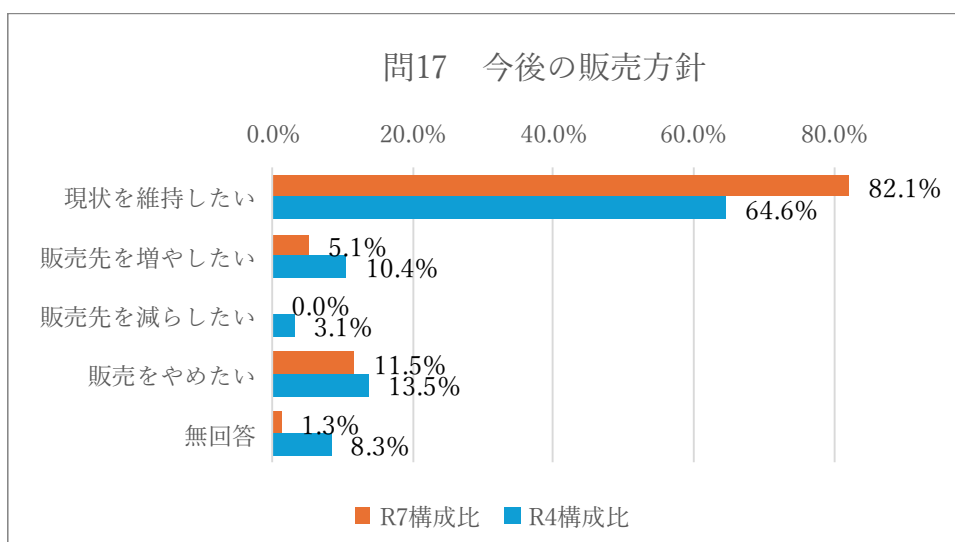
今後の販売については、78人中64人(82.1%)が「現状維持」と回答している。「販売先を増やしたい」という希望は4人、「販売をやめたい」が9人となっている。前回比較では「現状維持」の構成比の上昇が確認できる(64.6%から82.1%)。

販売中止の理由としては、9人全員が「後継者の不在」を挙げている。

※構成比は問10「収入がある」の回答数に対する割合

今後の販売方針	令和7年		令和4年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
現状を維持したい	64	82.1%	62	64.6%
販売先を増やしたい	4	5.1%	10	10.4%
販売先を減らしたい	0	0.0%	3	3.1%
販売をやめたい	9	11.5%	13	13.5%
無回答	1	1.3%	8	8.3%
合計	78	100.0%	96	100.0%

販売を辞める理由	令和7年		令和4年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
農業の後継者がいないため	9	100.0%	10	76.9%
その他	0	0.0%	3	23.1%
合計	9	100.0%	13	100.0%



問 18 今後の農業経営について

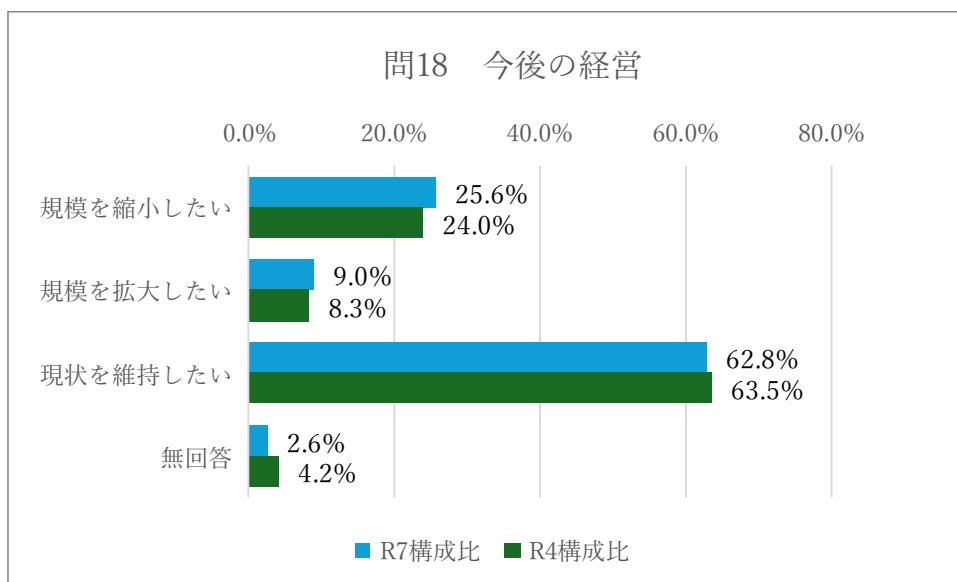
今後の農業経営については、78人中「現状維持」が49人で62.8%だが、「規模縮小」が20人なのに対し、「規模拡大」は7人と少ない。

(「規模縮小」農家の農地の受け手の確保が課題となる。)

構成比の前回比較ではほぼ横ばいとなっている。

※構成比は問10「収入がある」の回答数に対する割合

今後の農業経営	令和7年		令和4年	
	回答数	構成比	回答数	構成比
規模を縮小したい	20	25.6%	23	24.0%
規模を拡大したい	7	9.0%	8	8.3%
現状を維持したい	49	62.8%	61	63.5%
無回答	2	2.6%	4	4.2%
合計	78	100.0%	96	100.0%



### 問 19 貸したい農地の有無

規模縮小と答えた方に“貸したい農地の有無”を尋ねると、6人から「ある」との回答を得た。貸したい面積としては10 m<sup>2</sup>～1200 m<sup>2</sup>となっており、前回に比べてやや小規模になっている。

※構成比は問 18 で「規模縮小」と回答した人数に対する割合

貸したい農地の有無	令和7年		令和4年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
ある	6	30.0%	11	47.8%

・貸したい面積

令和7年	10～1200 m <sup>2</sup>
令和4年	300～2000 m <sup>2</sup>

### 問 20 拡大希望地区

規模拡大意向のある方に、引き受けたい地区を尋ねると、東秋留地区・多西地区・増戸地区が挙げられている。東秋留地区は前回と同じく最も希望の引き受ける意向の多い地区となっている。

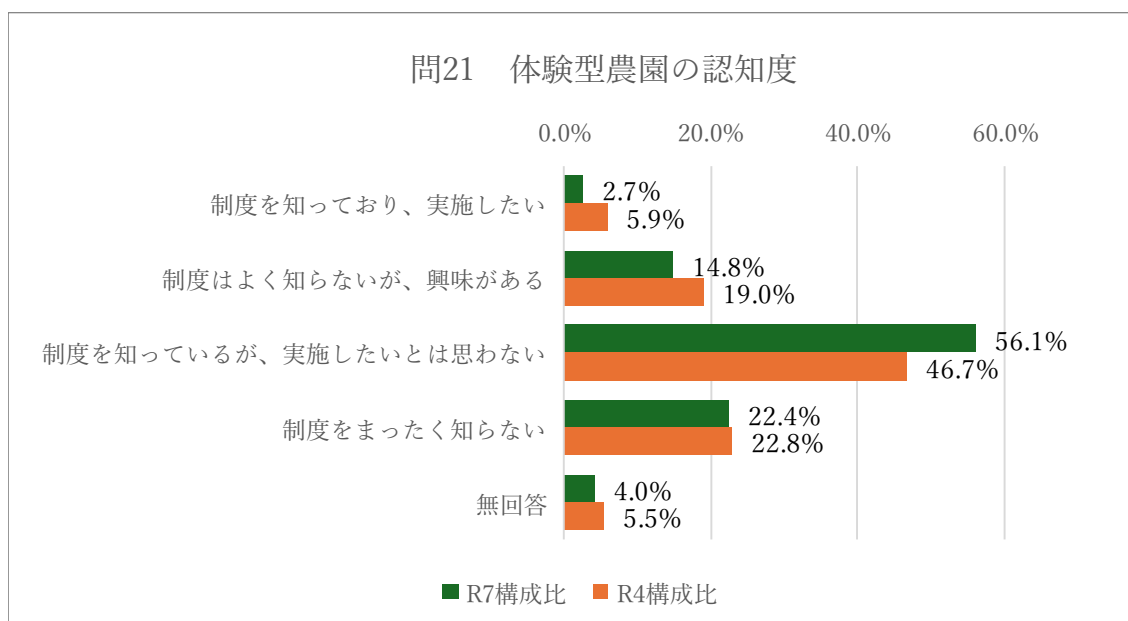
拡大意向地区	令和7年	令和4年
東秋留地区	4	6
多西地区	3	0
西秋留地区	0	0
増戸地区	2	3
五日市地区	1	1
戸倉・小宮地区	0	1

## 問 21 体験型農園の認知度

体験型農園の認知度については、「実施したい」との回答が6人から得られた。一方で、制度について「制度はよく知らないが興味がある」が33人、「制度をまったく知らない」が50人となっており、「制度を知らない」とする回答が88人（37.2%）となっている。

前回比較では、「制度を知っているが、実施したいとは思わない」の構成比が増えている。

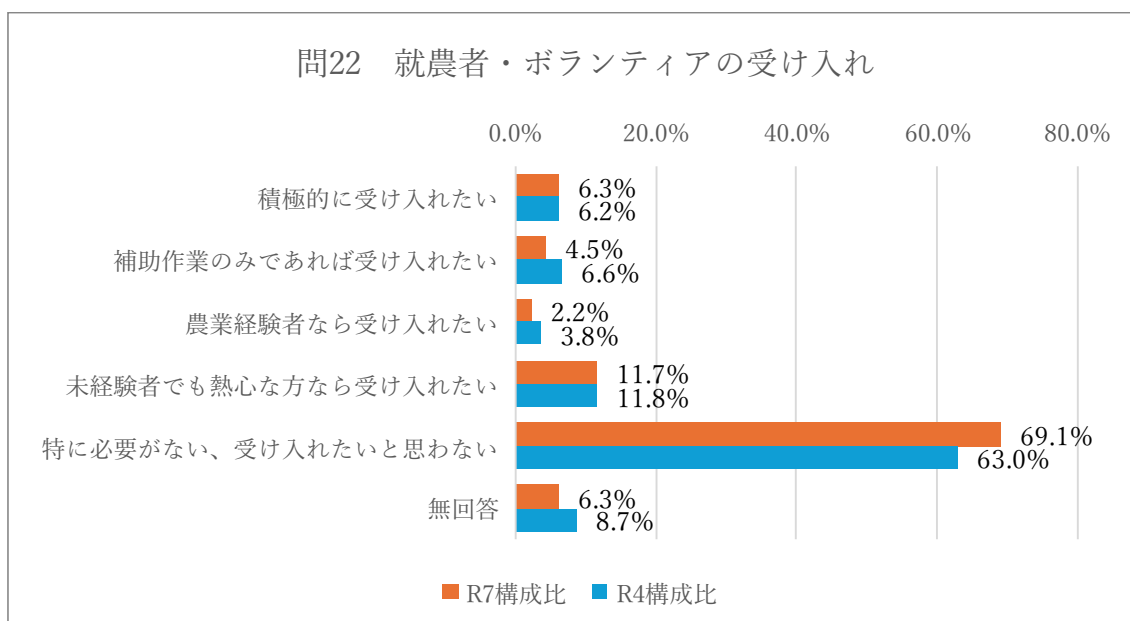
体験型農園の認知度	令和7年		令和4年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
制度を知っており、実施したい	6	2.7%	17	5.9%
制度はよく知らないが、興味がある	33	14.8%	55	19.0%
制度を知っているが、実施したいとは思わない	125	56.1%	135	46.7%
制度をまったく知らない	50	22.4%	66	22.8%
無回答	9	4.0%	16	5.5%
合計	223	100.0%	289	100.0%



## 問 22 就農者・ボランティアの受け入れ

就農希望者やボランティアの受け入れについては、条件に違いはあるが 55 人から受け入れ希望が寄せられている。

就農者・ボランティアの受入意向	令和 7 年		令和 4 年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
積極的に受け入れたい	14	6.3%	18	6.2%
補助作業のみであれば受け入れたい	10	4.5%	19	6.6%
農業経験者なら受け入れたい	5	2.2%	11	3.8%
未経験者でも熱心な方なら受け入れたい	26	11.7%	34	11.8%
特に必要がない、受け入れたいと思わない	154	69.1%	182	63.0%
無回答	14	6.3%	25	8.7%
合計	223	100.0%	289	100.0%

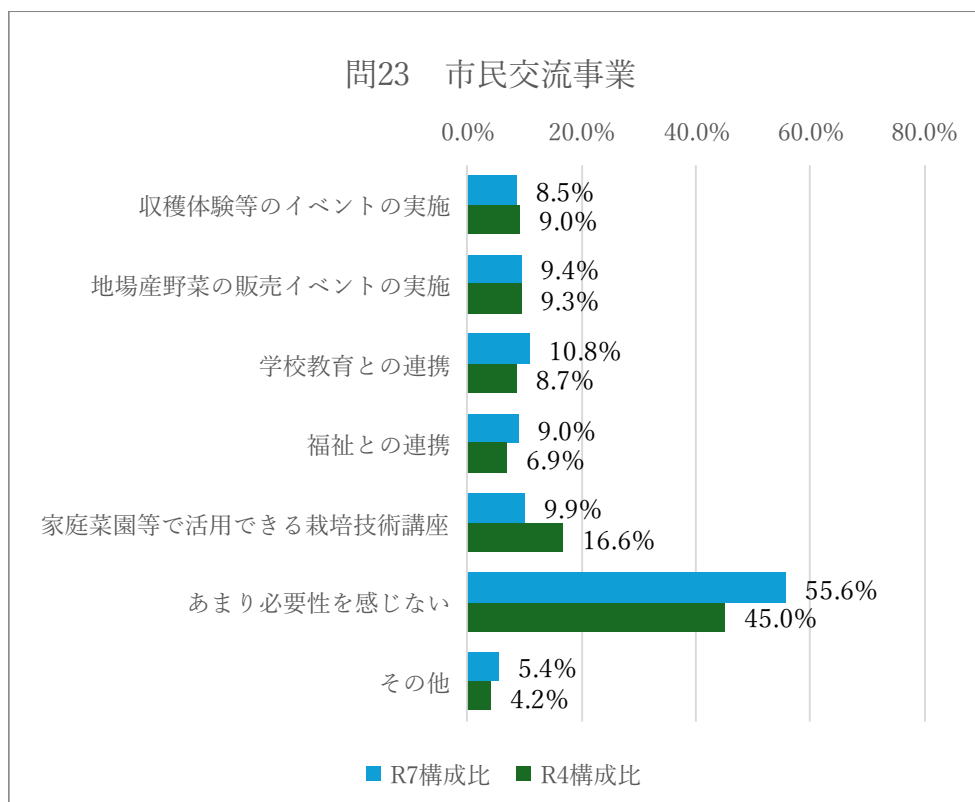


## 問 23 交流事業

市民との交流事業としては、「学校教育との連携」、「栽培技術講座」、「販売イベント」などの希望がみられた。一方で構成比の前回比較では、「必要性を感じない」とする回答の割合の上昇が見られる。

※複数回答

市民交流事業の希望	令和7年		令和4年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
収穫体験等のイベントの実施	19	8.5%	26	9.0%
地場産野菜の販売イベントの実施	21	9.4%	27	9.3%
学校教育との連携	24	10.8%	25	8.7%
福祉との連携	20	9.0%	20	6.9%
家庭菜園等で活用できる栽培技術講座	22	9.9%	48	16.6%
あまり必要性を感じない	124	55.6%	130	45.0%
その他	12	5.4%	12	4.2%



## ■自由記述

自由記述欄には41名の方からの意見があった。内容ごとに分類した結果、人手不足、農地の管理（不耕作地、雑草の発生）、農業機械・器具・燃料代への支援、鳥獣被害、自然環境を活かした農業体験、土地利用規制の在り方などの意見があった。

### （1）多様な担い手・人手不足

- ・田んぼ、不耕作者が草刈り等をしないため、用水路の維持管理の手間がかかる。少しでも耕作者が増えるような方法はないものかと思う。
- ・事業として成立する農業と担い手の育成。
- ・高齢で一人、耕作も少ないです。
- ・私が高齢のため、孫（20歳）が就農を考えてくれるようになりました。今後も若い人たちの就農に対し補助事業を継続して欲しい。
- ・農業従事者への資金援助があればと考えますが、小さな耕作地が多いため、小規模とならざるを得ず難しい。農協等が主体となった若い世代の協力者の育成を望んでいます。（農業所得が高くなる工夫が必要）
- ・この地区の農業継続は非常に難しい。高齢で後継者もいない。家庭菜園的な農業はやっているが何年か先には不可能となる。畑を管理できる人間がいなくなったら、行政で引き取り管理してもらえば良い？現在、他人の不耕作地も草刈りをしています。
- ・高齢化しているので、ボランティア（経験者）がいれば助かります。
- ・小さい畑が2から3カ所となっているので、市民農園としては不適切で、個人的に耕作してくれる人を探すのは大変です。
- ・若手（農業者）の育成に力を入れて欲しい。

### （2）農地の管理（不耕作地、雑草の発生、農地のあっせん、流動化など）

- ・畑を人に貸したり、何かの活用にとと思いますが、活用しないと草が生えるので本当に困る。大変。
- ・高齢化が進み、農作業ができなくなり、草畑が増えて動物が家の近くまで出てきています。そこで、休耕地を市で借り上げ就農希望者に紹介することは、とても良いと思います。
- ・草刈りだけはしています。
- ・引田桜ノ岡178に隣接する不耕作農地の伐採（くずばふじ等）を望む。
- ・西郷前耕地10aの水田をしている。現在耕作者は3～4名に減り、用水費の高額負担、耕作放棄地の増加、一部は畑として利用しているが、水田に入れた水で冠水被害を出してしまう等の問題がある。夏季には3mを超える雑草が生い茂る、小学校においてこの有様では、農業振興とは程遠いイメージです。行政の立場で当耕作地はどのようにお考えなのか、知りたいところです。

- ・武蔵引田駅の東側の線路南に不耕作地が多く見られる。
- ・畑を購入したい。
- ・農業振興地域（戸倉・小宮地区）の農地の現状は、不耕作地が年々増加して、雑草、原野化が著しい。これは、所有者の高齢化、周辺山林等の高木化による日照の低下、野生動物の増加による被害等が理由と考えられる。今後の計画にあたっては、農地の売買、転用等の規制緩和、周辺環境の総合的整備、女性の農業参加の促進等による抜本的な計画の見直しを強く要望する。なお、現地調査を含めての徹底的な農地の実態調査が必要と思われます。

### （３）農業機械・器具・燃料代への支援、農業用施設

- ・共同の堆肥・ふん尿を受け入れて堆肥化する施設があるとありがたい。（農家さんも堆肥を得られるメリットがある）
- ・年間の売上が一定額以上（例えば50万円/年）の兼業者に対しても農機具購入等の補助制度を是非とも創設願いたい。
- ・ハンマーモアのレンタルがあると助かります。または、中古販売でも良いです。
- ・温室の燃料代の補助。

### （４）鳥獣被害

- ・五日市地区の西側は、農業環境に適していない。農作物をサル、イノシシ等の食害により農業ができない。この現実を市は知っていると思う。農政は無策である。当アンケートはどの地区を目的にしているのか？現実の対策を至急願いたい。
- ・猿や鹿の被害が大きいので、何らかの対策をお願いします。または、動物の数を減らして欲しい。
- ・鹿の獣害対策をなんとかして欲しい。
- ・猿の対策をお願いしたい。
- ・鳥獣被害が多く、更に近隣の人への危害が心配である。
- ・猿、猪、アナグマ、鹿などの獣害で作物がとれない。よって農業への意欲がわからない。
- ・戸倉地区なので獣害対策（猿、鹿）をお願いしたい。
- ・中山間地域の農業は、イノシシ、シカ、サル、ハクビシン、アナグマ、タヌキ等の被害が多です。行政と協力して、可能な限り不耕作地を減少する努力が必要です。
- ・獣害対策が個人ではカバーできない。対策できれば高齢ではあるが縮小せずに農地のない方々に貸し付け可能となる。

### （５）自然環境を活かした農業

- ・都内の人が多く農業体験で来ていますが、もっと発掘できるように考えていただきたいです。また、小庄の田んぼにホタル、ドジョウ、サンショウウオ、カエルなどいるので、通

年水路に水を流して欲しい。

- ・小川久保の耕作者です。田の風景を残したいと頑張っています。しかし、今、自分では耕作できなくなっている農家が多くなり、仲間の一人が多くを引き受けていますが、水利用の電気代も安くなく、これから先を心配しています。農業振興用地でもあり、何か対策を考えて欲しい。
- ・御堂たんぼで今年から多西小5年生の稲作体験を開始しています。御堂耕地組合で協力していますが、市も協力をお願いします。

#### (6) 情報発信、PR活動

- ・あきる野市の農業の特性を捉え、関係者で共有する。そしてそれを内外に発信し、市の農業の魅力を多くの人に知ってもらう。直売所などに足を運んでもらえるような仕組みができると良いと思います。決して容易なことではないと思いますが、できる範囲の協力ができると良いと考えています。

#### (7) 土地利用規制の在り方

- ・市街化調整区域内の未利用になっている農地の利用について、市が積極的に活用できるような制度を検討してもらいたい。
- ・農業者の高齢化や担い手不足により耕作放棄となり、結果、獣害も多発と悪循環が続いている。市街化調整区域においては、建物の建築はできず、農地転用もできない。一方で農業をやりたい人や田舎に住みたい人はいる。全国的に超高齢化、人口減少が問題となる中、市街化を抑制した結果、過疎化が促進し、農地が荒れる。行政の方で昭和40年代から5～60年変わらず、現況に合っていない都市計画の改善を検討してもらえないか。例えば市街化にし、田園住居地域にするなど。現状が続けば20年後の乙津、戸倉は、ほとんどの地域で集落が失われていくのではないかと懸念している。

#### (8) その他

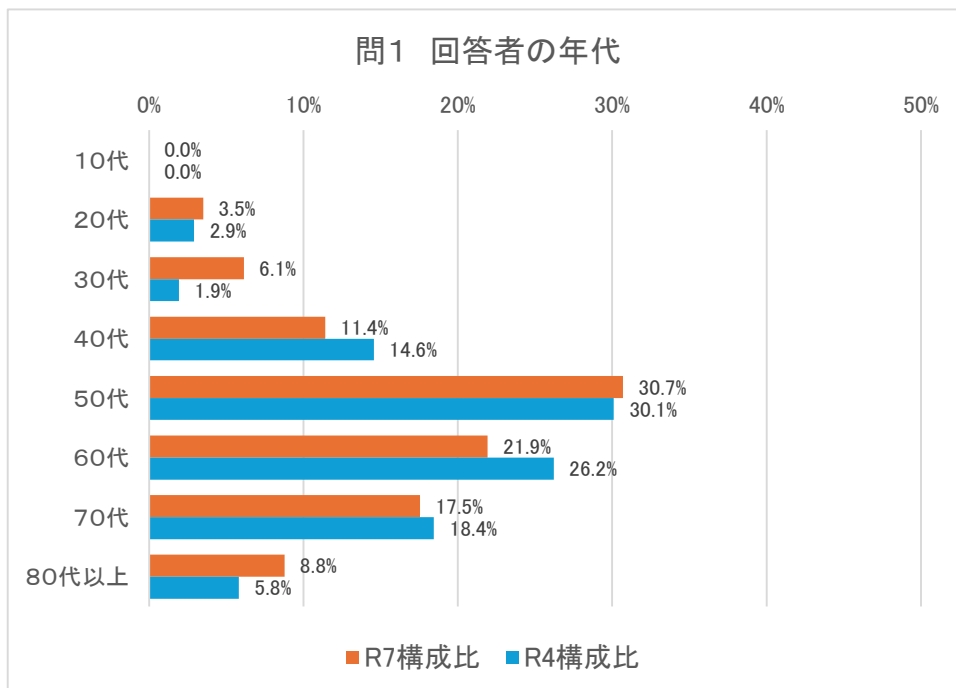
- ・市は農業を本当に必要と考えているのか？
- ・農道への一般車両の通過が高速であぶない。
- ・人家が少ない行き止まり（本当は赤道があるが、道路内にブロックを設置されているので果実等盗難に遭うため、人が入れないように草を30cm位の高さに残している。）苦情をそのまま農業者に伝えるのでなしに総合的に対応していただきたい。
- ・楽しい農業。
- ・私は1,000㎡の畑を持て余しながら耕作していますが、季節の作物を食すとき農業のありがたさを感じます。私はお茶畑も有していますので、一年を通して自家製のお茶を服しています。

### 3. 直売所利用者アンケート結果

#### 問1 回答者の年代

回答者の年代は50歳代が35人(30.7%)となっており、前回実施時とほぼ同様である。そのほかでは、30歳代や80歳以上がやや増えている。

年代	令和7年		令和4年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
10代	0	0.0%	0	0.0%
20代	4	3.5%	3	2.9%
30代	7	6.1%	2	1.9%
40代	13	11.4%	15	14.6%
50代	35	30.7%	31	30.1%
60代	25	21.9%	27	26.2%
70代	20	17.5%	19	18.4%
80代以上	10	8.8%	6	5.8%
計	114	100%	103	100%

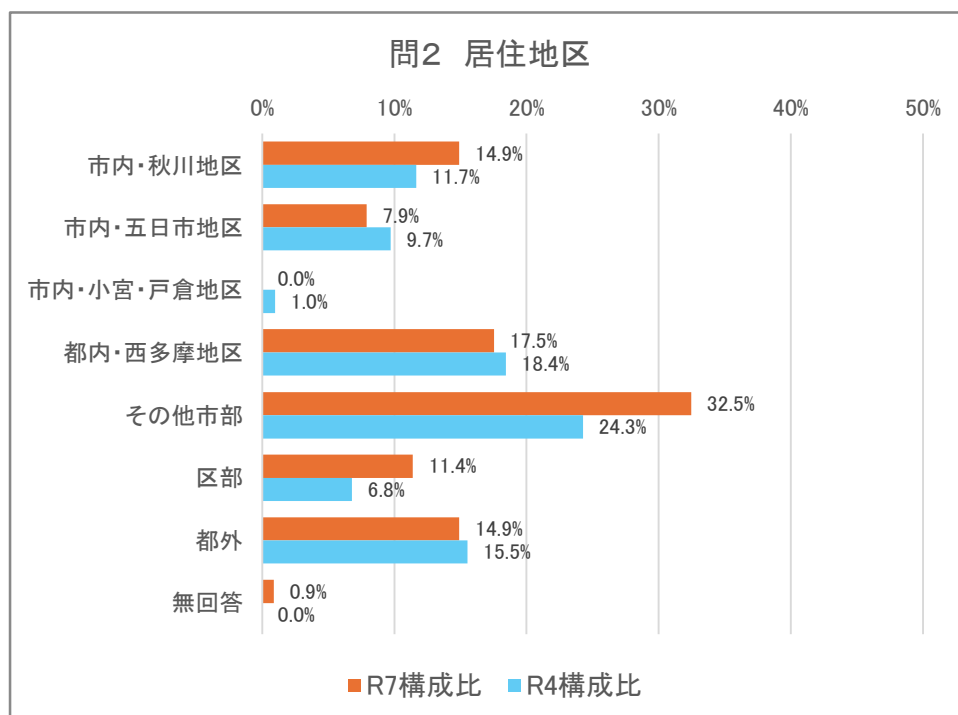


## 問2 回答者の居住地区

回答者の居住地区は、東京の市部が最も多く、前回調査よりも割合が増えている。また、区部からの利用者も増えている。

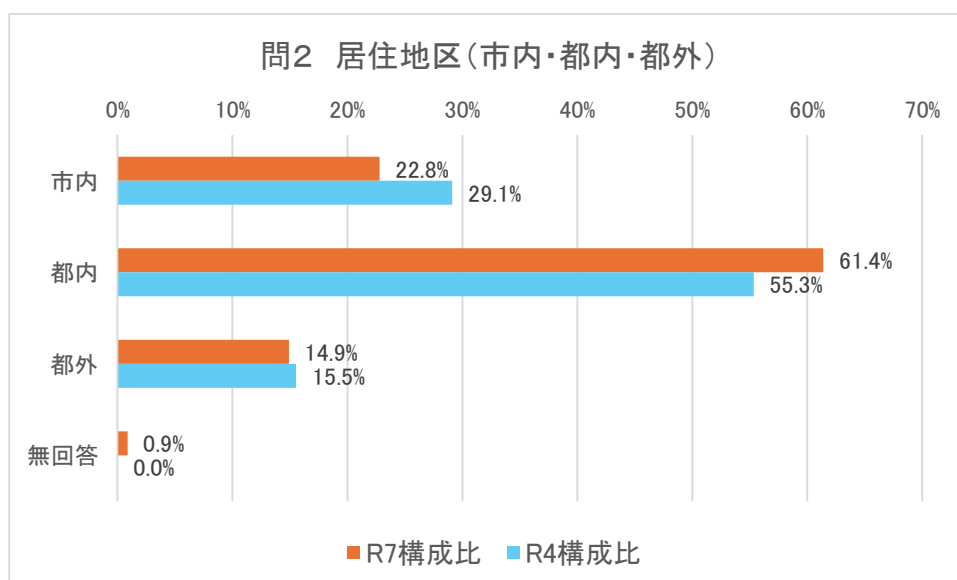
地区	令和7年		令和4年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
市内・秋川地区	17	14.9%	12	11.7%
市内・五日市地区	9	7.9%	10	9.7%
市内・小宮・戸倉地区	0	0.0%	1	1.0%
都内・西多摩地区	20	17.5%	19	18.4%
その他市部	37	32.5%	25	24.3%
区部	13	11.4%	7	6.8%
都外	17	14.9%	16	15.5%
無回答	1	0.9%	0	0.0%
計	114	100.0%	90	87.4%

注：市内及び都内の内訳が無回答を除いているため、下表とは一致しない。



市内よりも市外が多い。(市外 87 人 (77%))

地区	令和7年		令和4年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
市内	26	22.8%	30	29.1%
都内	70	61.4%	57	55.3%
都外	17	14.9%	16	15.5%
無回答	1	0.9%	0	0.0%
計	114		103	

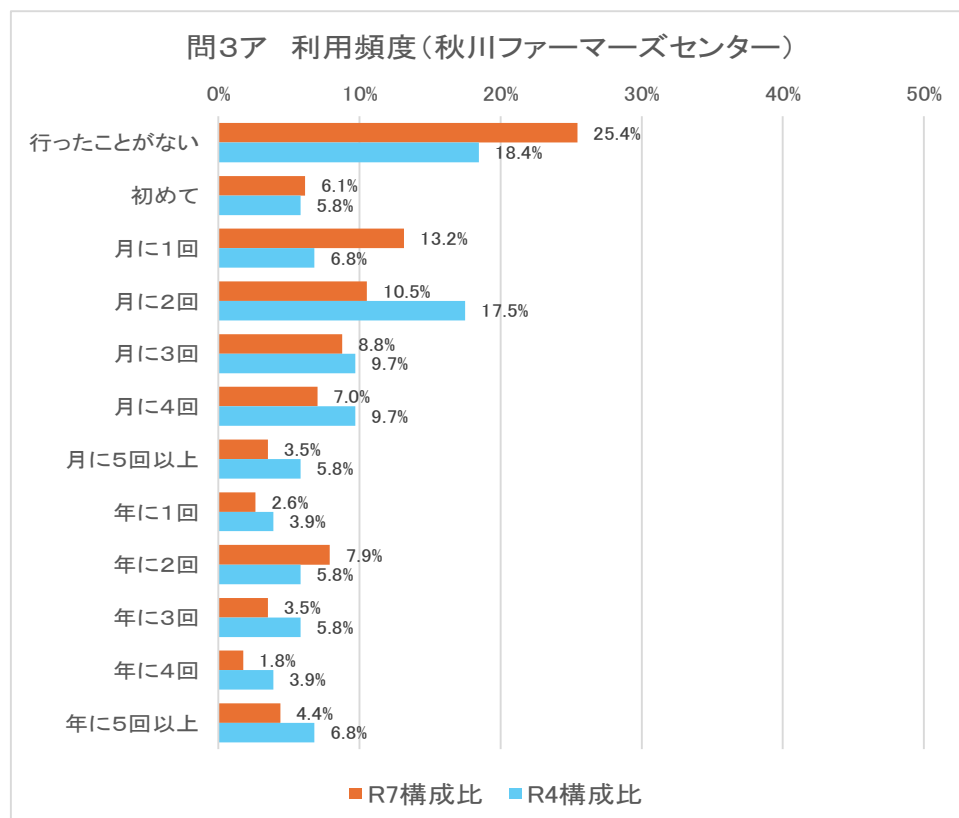


### 問3 ア直売所の利用頻度（秋川ファーマーズセンター）

利用頻度をみると、秋川ファーマーズセンターは月1～2回程度の利用が多い。前回調査と比べると、「月1回程度」が増えており、市外からの利用者が多いことが影響していると思われる。

なお、3か所の直売所利用者の合計で集計していることから、直売所ごとでは「行ったことがない」が多くなっている。

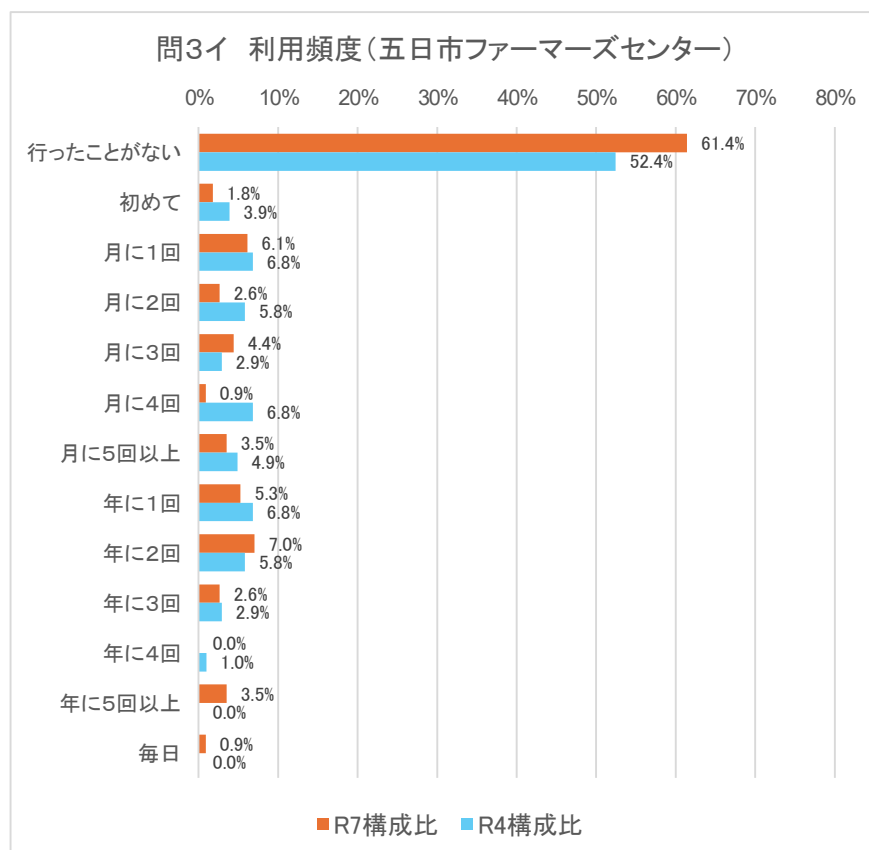
回数頻度	令和7年		令和4年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
行ったことがない	29	25.4%	19	18.4%
初めて	7	6.1%	6	5.8%
月に1回	15	13.2%	7	6.8%
月に2回	12	10.5%	18	17.5%
月に3回	10	8.8%	10	9.7%
月に4回	8	7.0%	10	9.7%
月に5回以上	4	3.5%	6	5.8%
年に1回	3	2.6%	4	3.9%
年に2回	9	7.9%	6	5.8%
年に3回	4	3.5%	6	5.8%
年に4回	2	1.8%	4	3.9%
年に5回以上	5	4.4%	7	6.8%
無回答	6	5.3%	0	0.0%
計	114	100%	103	100%



問3 イ直売所の利用頻度（五日市ファーマーズセンター）

五日市ファーマーズセンターの利用頻度は、年に1～3回程度であり、「行ったことがない」が6割を超え、「瀬音の湯（朝露）」よりも多くなっている。

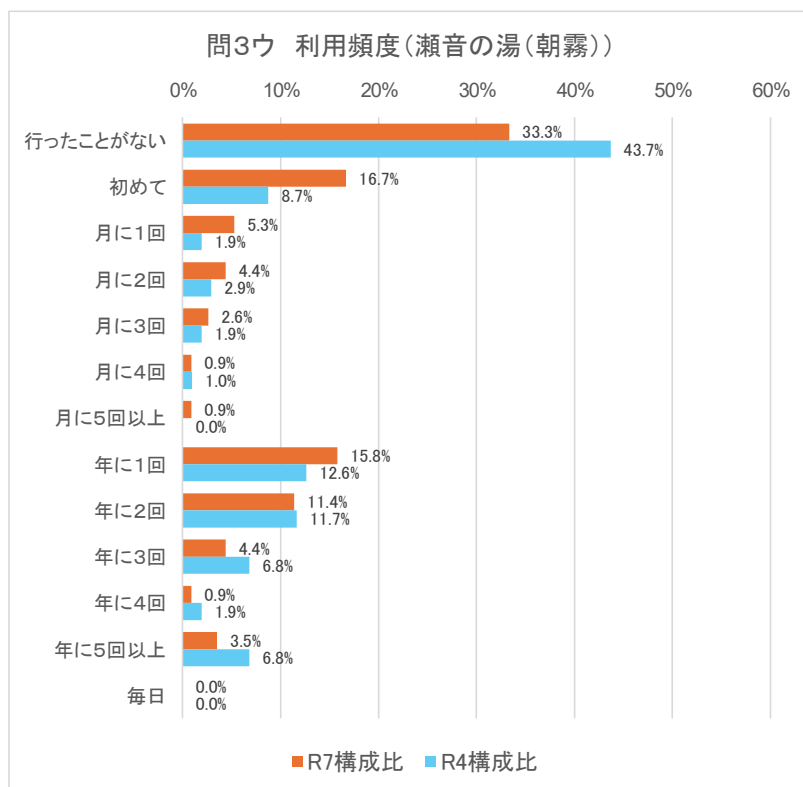
回数頻度	令和7年		令和4年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
行ったことがない	70	61.4%	54	52.4%
初めて	2	1.8%	4	3.9%
月に1回	7	6.1%	7	6.8%
月に2回	3	2.6%	6	5.8%
月に3回	5	4.4%	3	2.9%
月に4回	1	0.9%	7	6.8%
月に5回以上	4	3.5%	5	4.9%
年に1回	6	5.3%	7	6.8%
年に2回	8	7.0%	6	5.8%
年に3回	3	2.6%	3	2.9%
年に4回	0	0.0%	1	1.0%
年に5回以上	4	3.5%	0	0.0%
毎日	1	0.9%	0	0.0%
計	114	100%	103	100%



問3 ウ直売所の利用頻度（瀬音の湯（朝露））

瀬音の湯（朝露）の利用頻度は、「初めて」の人や、年1～2回が多く、観光目的を含んでいると思われる。なお、「行ったことがない」は3割程度であった。

回数頻度	令和7年		令和4年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
行ったことがない	38	33.3%	45	43.7%
初めて	19	16.7%	9	8.7%
月に1回	6	5.3%	2	1.9%
月に2回	5	4.4%	3	2.9%
月に3回	3	2.6%	2	1.9%
月に4回	1	0.9%	1	1.0%
月に5回以上	1	0.9%	0	0.0%
年に1回	18	15.8%	13	12.6%
年に2回	13	11.4%	12	11.7%
年に3回	5	4.4%	7	6.8%
年に4回	1	0.9%	2	1.9%
年に5回以上	4	3.5%	7	6.8%
毎日	0	0.0%	0	0.0%
計	114	100%	103	100%

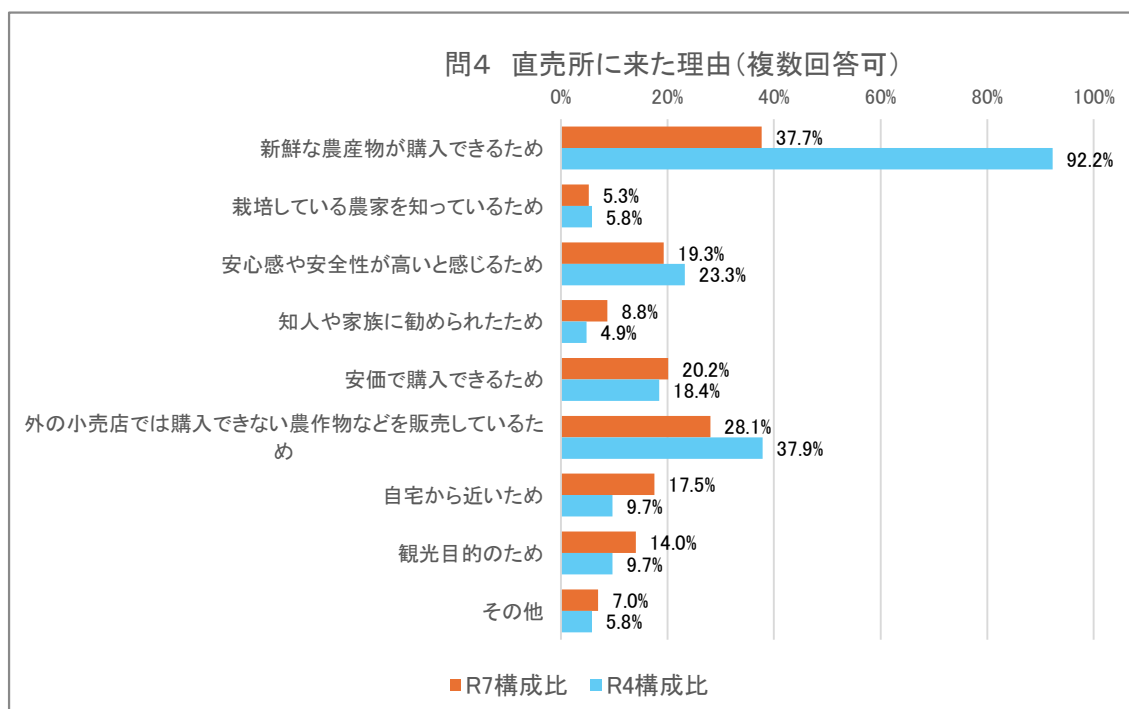


#### 問4 直売所に来た理由（複数回答可）

直売所に来た理由は、“新鮮さ”が多いが、前回調査と比べるとその割合は下がっている。“直売所には新鮮な農産物がある”との認識は当然のことと思われるようになったといえる。次いで多いのは、ほかでは買えない“珍しいもの”を求めている人が32人で3割近い。

前回調査と比べて増えている項目は、「自宅から近いため」や「観光目的」が挙げられた。

理由	令和7年		令和4年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
新鮮な農産物が購入できるため	43	37.7%	95	92.2%
栽培している農家を知っているため	6	5.3%	6	5.8%
安心感や安全性が高いと感じるため	22	19.3%	24	23.3%
知人や家族に勧められたため	10	8.8%	5	4.9%
安価で購入できるため	23	20.2%	19	18.4%
外の小売店では購入できない農作物などを販売しているため	32	28.1%	39	37.9%
自宅から近いため	20	17.5%	10	9.7%
観光目的のため	16	14.0%	10	9.7%
その他	8	7.0%	6	5.8%
合計	114	100.0%	103	100.0%



問5 今後販売してほしい商品

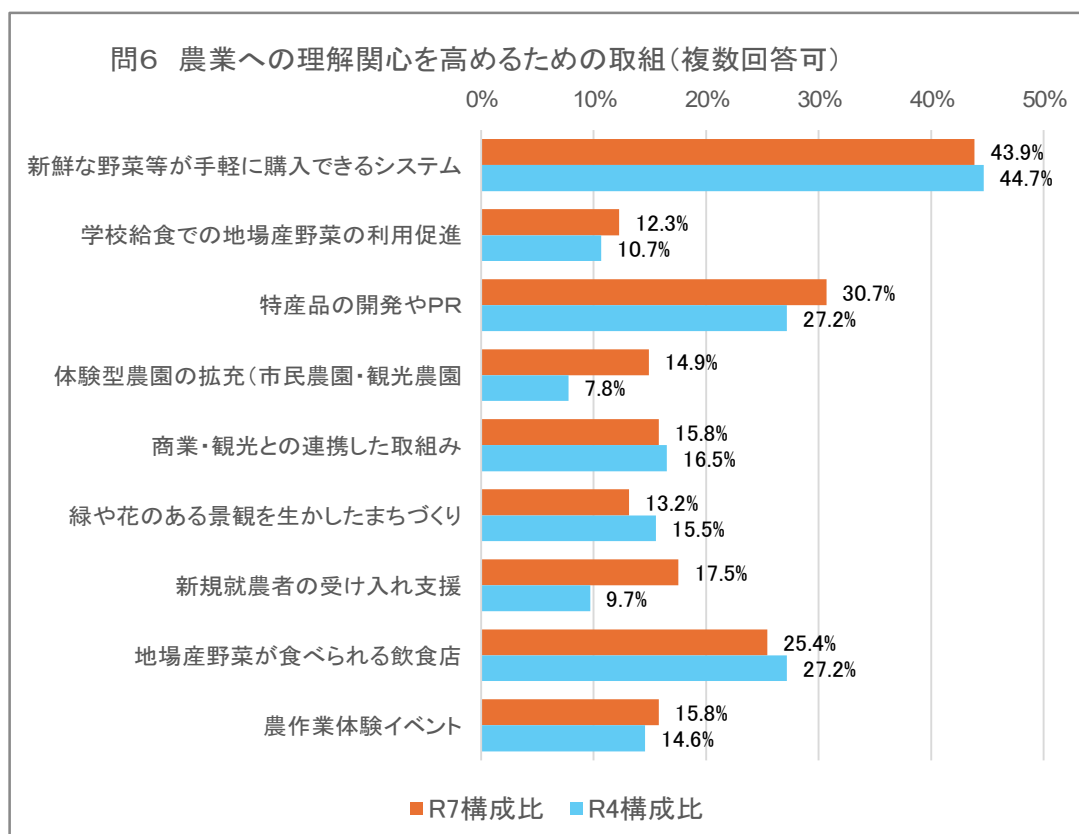
今後販売してほしい商品として要望されてものが19品目あった。特に、惣菜、肉類、魚類、果物、弁当が前回調査に引き続き要望されている。

	令和7年	令和4年
回答された商品名	回答の有無	回答の有無
惣菜	○	○
肉	○	○
TokyoX（豚肉）	○	
秋川牛	○	
魚	○	○
川魚	○	
鮎	○	
カニ	○	
米	○	
米粉	○	
旬な野菜	○	
芽キャベツ	○	
山菜	○	
キノコ	○	
果物	○	○
燻製食品	○	
弁当	○	○
カクテル	○	
トマト		○
とうもろこし		○
湯めぐり手形	○	
レシピの紙		○
合計	19 商品	8 商品

問6 農業への理解関心を高めるための取組（複数回答可）

農業への理解や関心を高めるための取組としては、前回調査と同様に“手軽さ”「新鮮な野菜等が手軽に購入できるシステム」が多かった。（43.9%）、次いで、「特産品の開発やPR」が30.7%の利用者から要望されている。前回調査と比べて多くなった項目としては、「新規就農者の受け入れ支援」、「体験型農園の拡充（市民農園・観光農園）」があげられた。

理由	令和7年		令和4年	
	回答数	R7 構成比	回答数	R4 構成比
新鮮な野菜等が手軽に購入できるシステム	50	43.9%	46	44.7%
学校給食での地場産野菜の利用促進	14	12.3%	11	10.7%
特産品の開発やPR	35	30.7%	28	27.2%
体験型農園の拡充（市民農園・観光農園）	17	14.9%	8	7.8%
商業・観光との連携した取組み	18	15.8%	17	16.5%
緑や花のある景観を生かしたまちづくり	15	13.2%	16	15.5%
新規就農者の受け入れ支援	20	17.5%	10	9.7%
地場産野菜が食べられる飲食店	29	25.4%	28	27.2%
農作業体験イベント	18	15.8%	15	14.6%
合計	114	100.0%	103	100.0%



## ■自由記述

### (1) 商品について

- ・新鮮な野菜の販売、今後ともお願いいたします。
- ・JA タウンで野菜セット等が購入できるとうれしいです。
- ・トマトが美味しいです。色んな野菜が買えると良いです。
- ・昔からある野菜、地中海地域等海外の野菜の栽培と販売
- ・地産物を多く。

### (2) 情報提供について

- ・ファーマーズマーケットの SNS 発信を増やして欲しい。
- ・市として農業の取組を発信機会を模索する。東海大菅生高校が甲子園に出場すると必ずふるさと納税がある。このときに市として取り組んでいる事業等を紹介できれば多少なりとも効果は見込めるのでは。
- ・JA の HP が変わらず残念、とうもろこしの情報が少ない、山梨県、埼玉県と競って欲しい。

### (3) 農業体験について

- ・農産物の管理、体験型農園など増やして欲しい。

### (4) 料理方法について

- ・新鮮な野菜が多くあるので、簡単で美味しい料理を教えて欲しい。

### (5) 農業の担い手について

- ・若手の方が珍しい。新しい野菜を作り販売できるよう行政も支援して欲しい。
- ・強い農家を目指す。

### (6) その他

- ・朝市を開催して欲しい。
- ・秋川 FC で早朝にショッピングカートにマイバックを入れ場所取りすることを許していることにイライラします。誰も注意しないのか？
- ・相模原と連携して欲しい（イベント、販売会、スペースはあります）
- ・野菜生産者が意見が書ける用紙を用意して欲しい。野菜が悪い場合があるため。
- ・農業を盛んに。